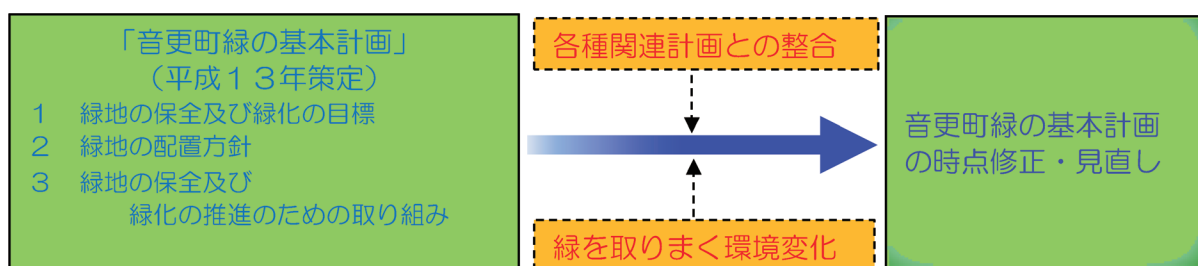


1-3 緑の基本計画の一部見直しについて

緑の基本計画は、平成10年度から平成12年度までの3か年で、現況調査、町民アンケート及び住民ワークショップなどを経て、平成13年3月に策定されましたが、計画策定から10年余りが経過し、緑を取りまく環境も変化していることから、緑の現況を整理し計画の進捗状況を確認するとともに、各種関連計画との整合を図るため、中間年における時点修正を基本に計画を一部見直しました。



1-4 緑を取りまく音更のまちの概況

音更町は、明治13年(1880年)に大川宇八郎が入地して以来、十勝川が育んだ広大な大地と美しい自然に恵まれた、日本を代表する穀倉地帯として発展してきました。また、十勝平野の中央部に位置し、十勝圏の中核都市である帯広市と隣接する地理的条件にも恵まれ、国勢調査による人口は、昭和35年(1960年)から増加傾向を示しており、現在では全道一の人口を有する町に発展しています。

一方、音更町の緑に目を転じると、市街地の東西には音更川河岸段丘の樹林地やオサルシナイ丘陵の樹林地、耕地防風林、十勝牧場内に残された自然空間などのほか、十勝川や音更川、土幌川、然別川などの河川空間が音更町の緑の骨格になっています。

また、公園緑地の町民1人当たり面積は北海道の平均を大きく上回る整備水準にありますが、配置にはまだ偏りが見られるほか、住民の市街地における一層の緑の確保が求められるなど、課題があります。

緑には大きく、快適な生活環境を支える緑(環境保全機能を持つ緑)、健康を支える緑(レクリエーション機能を持つ緑)、まちをまもる緑(防災機能を持つ緑)、郷土の風景をつくる緑(景観構成機能を持つ緑)の4つの機能がありますが、それぞれの機能ごとにも課題が挙げられています。